

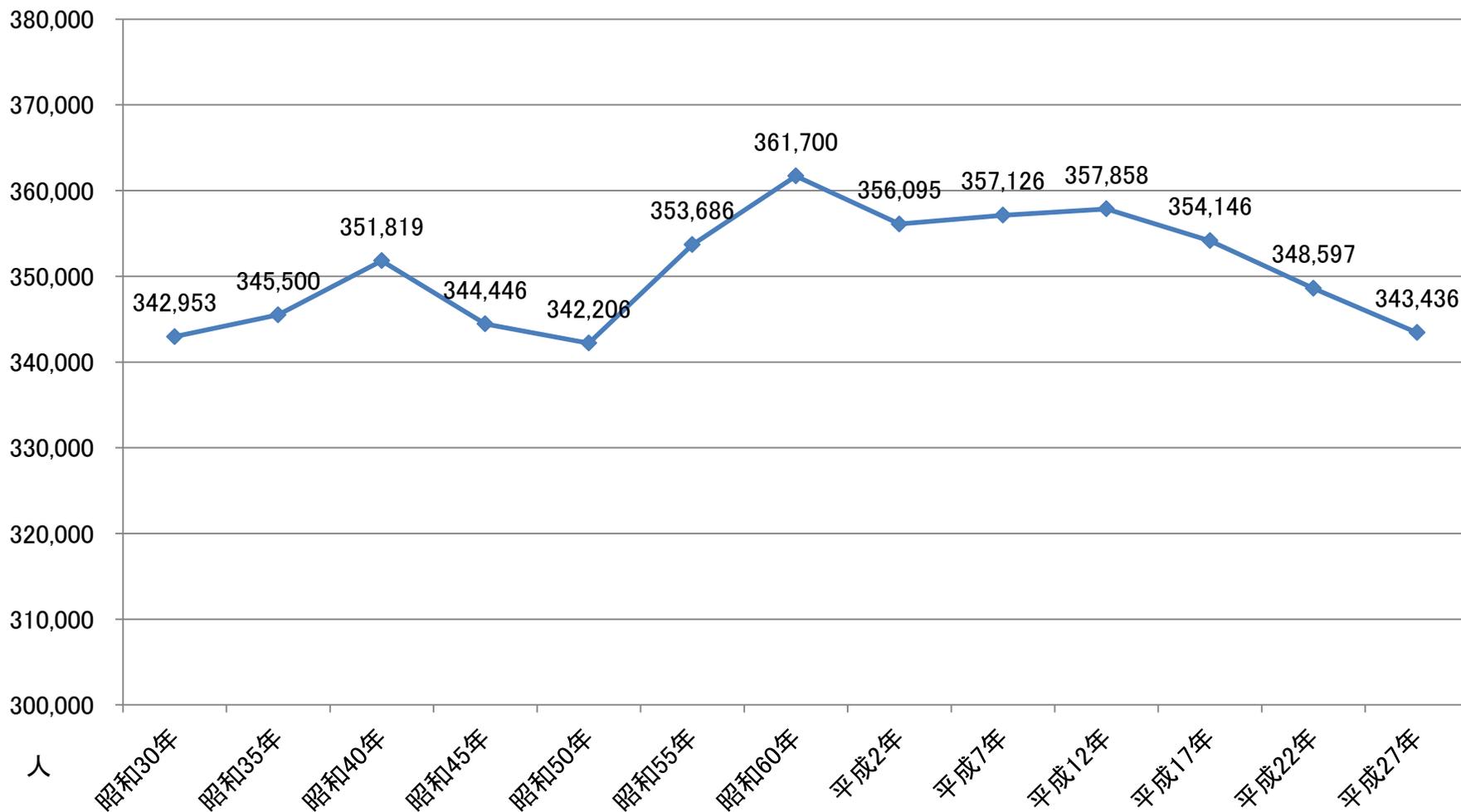
圏域レベルのデータ集積・活用報告書

令和元年10月24日
十勝定住自立圏幹事会事務局

1 人口について

1) 管内の総人口の推移

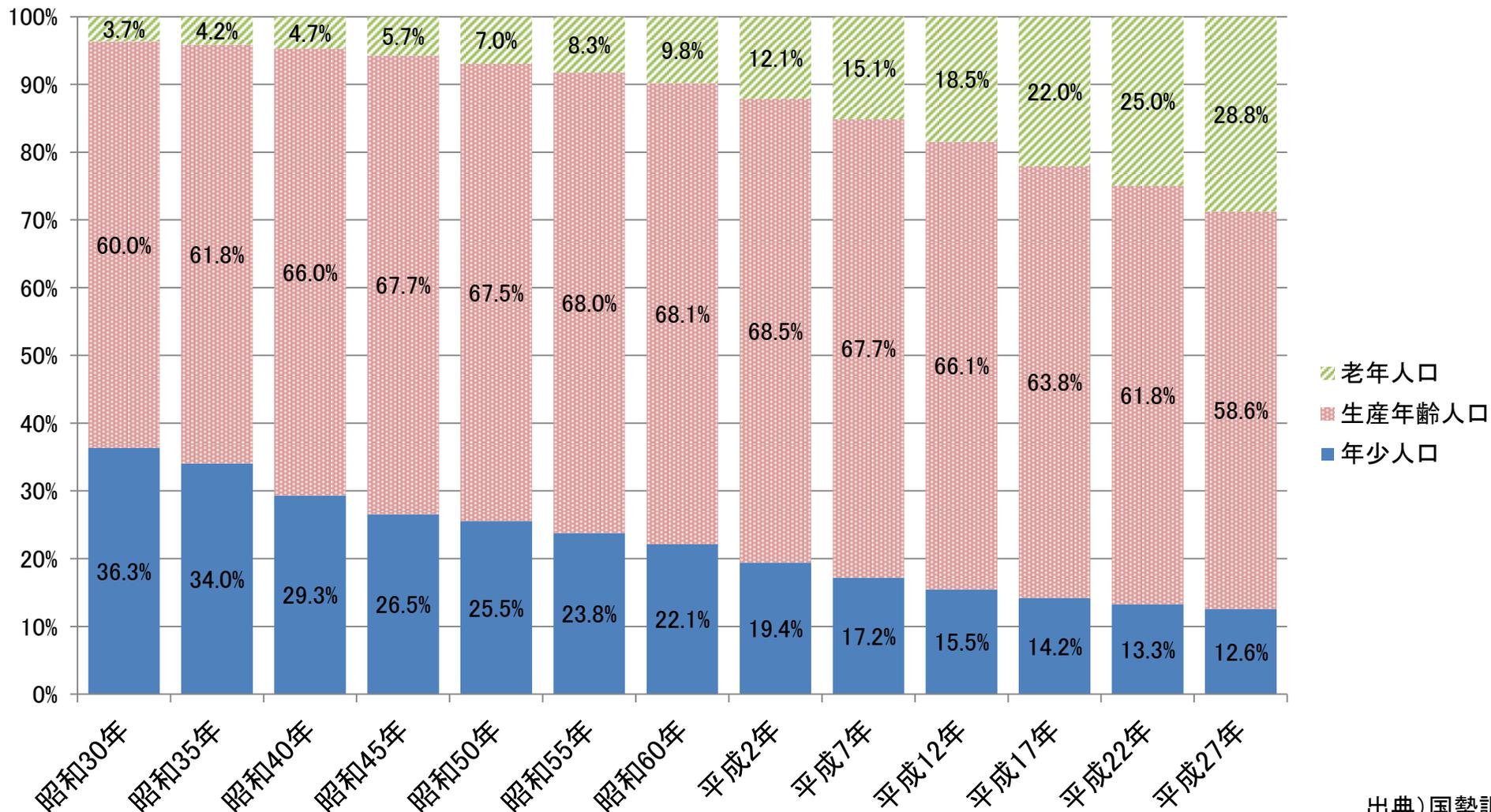
管内の総人口は昭和60年をピークに減少傾向。平成27年の総人口は昭和30年（約60年前）と同水準。



出典) 国勢調査

2) 管内の年齢3区分別人口割合の推移

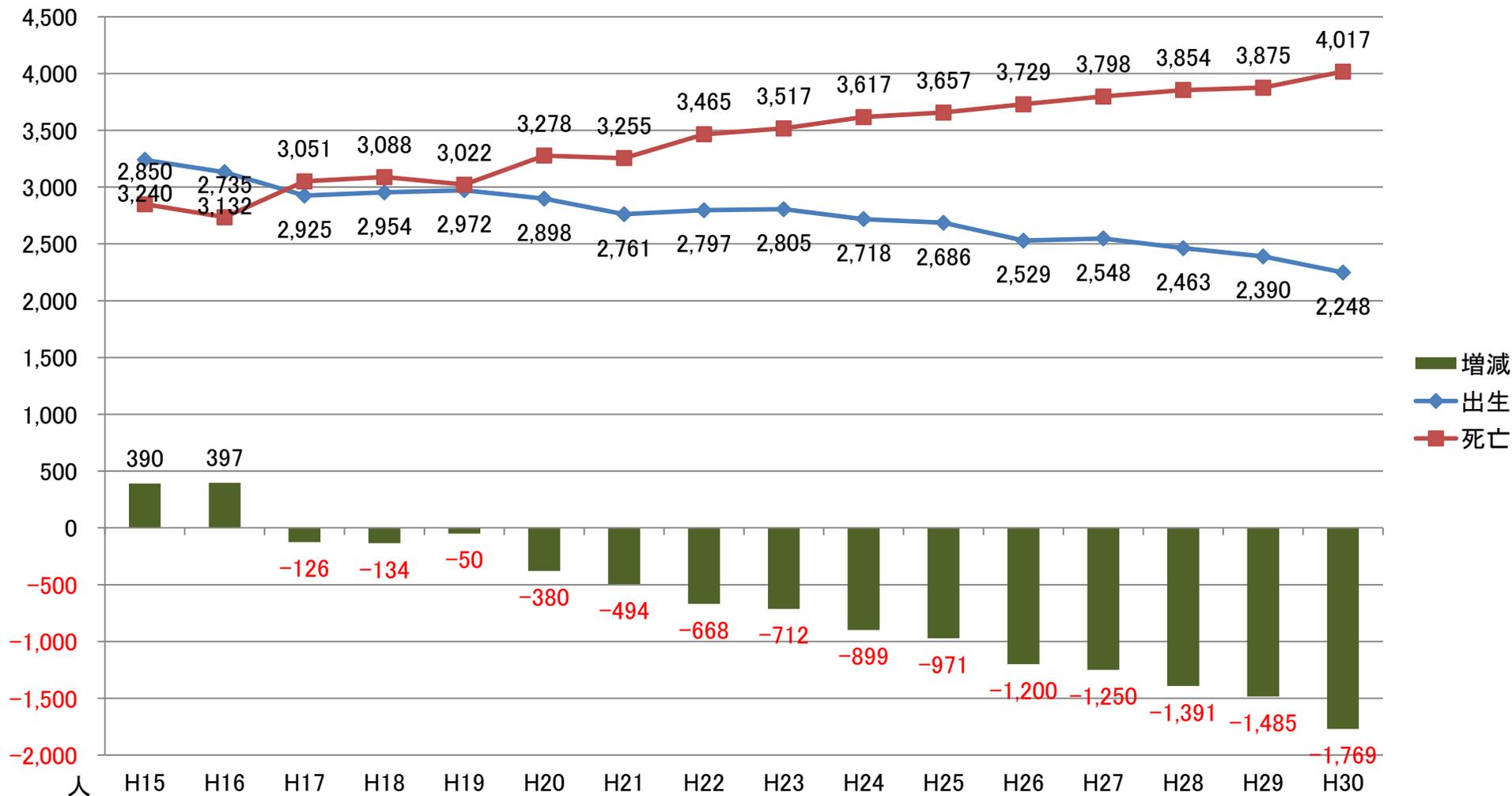
昭和30年と平成27年を比較すると、管内の高齢化率は3.7%から28.8%に上昇、年少人口は3分の1に減少。



出典) 国勢調査

3) 管内の自然動態

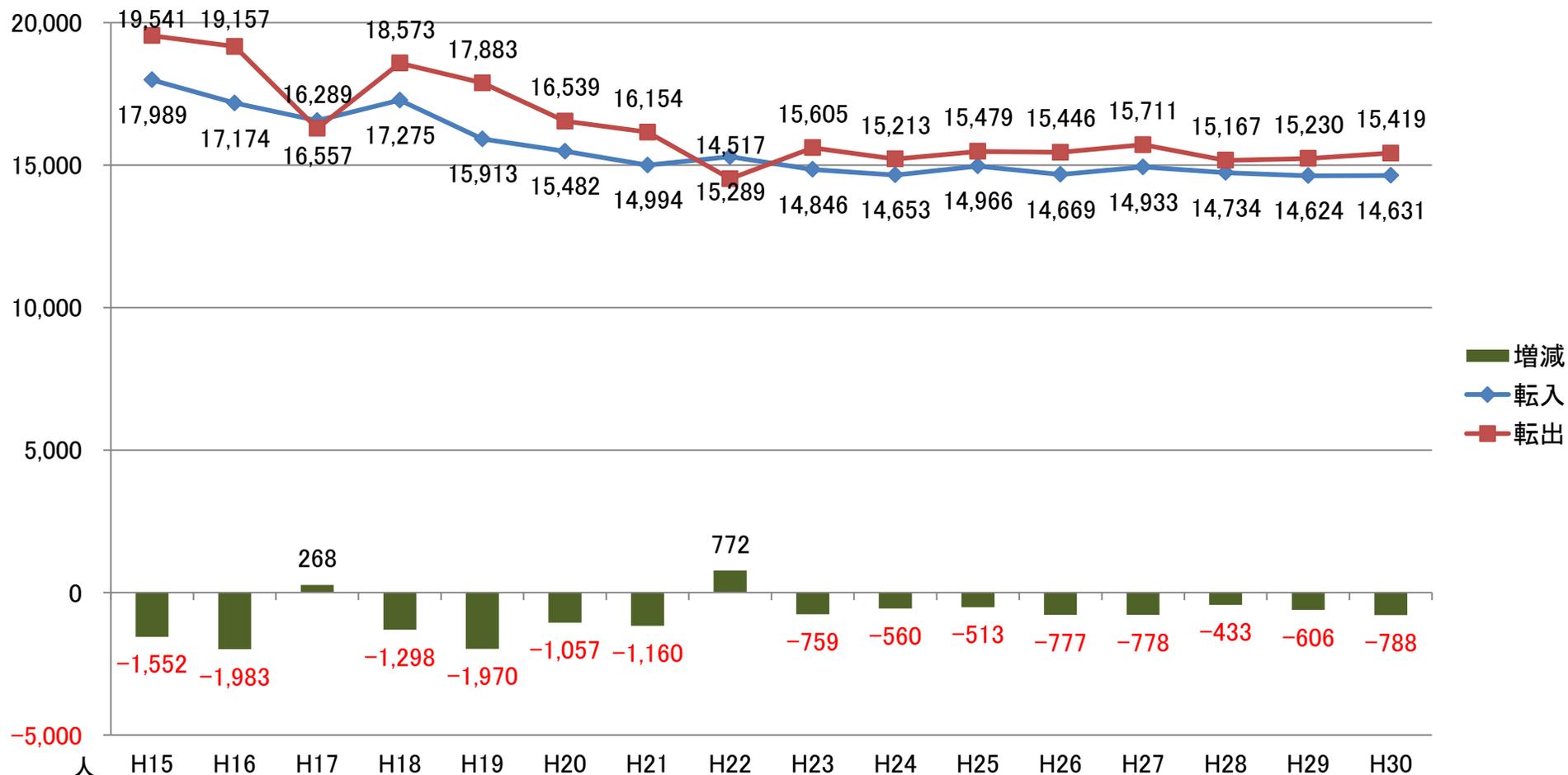
平成17年以降、死亡数が出生数を上回り、平成20年以降は自然動態のマイナス幅が拡大傾向にある。近年、死亡数の伸びは鈍化の傾向が見られるが、出生数の減少幅は年により変動がある。



出典)住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査 北海道地域振興局市町村課

4) 管内の社会動態

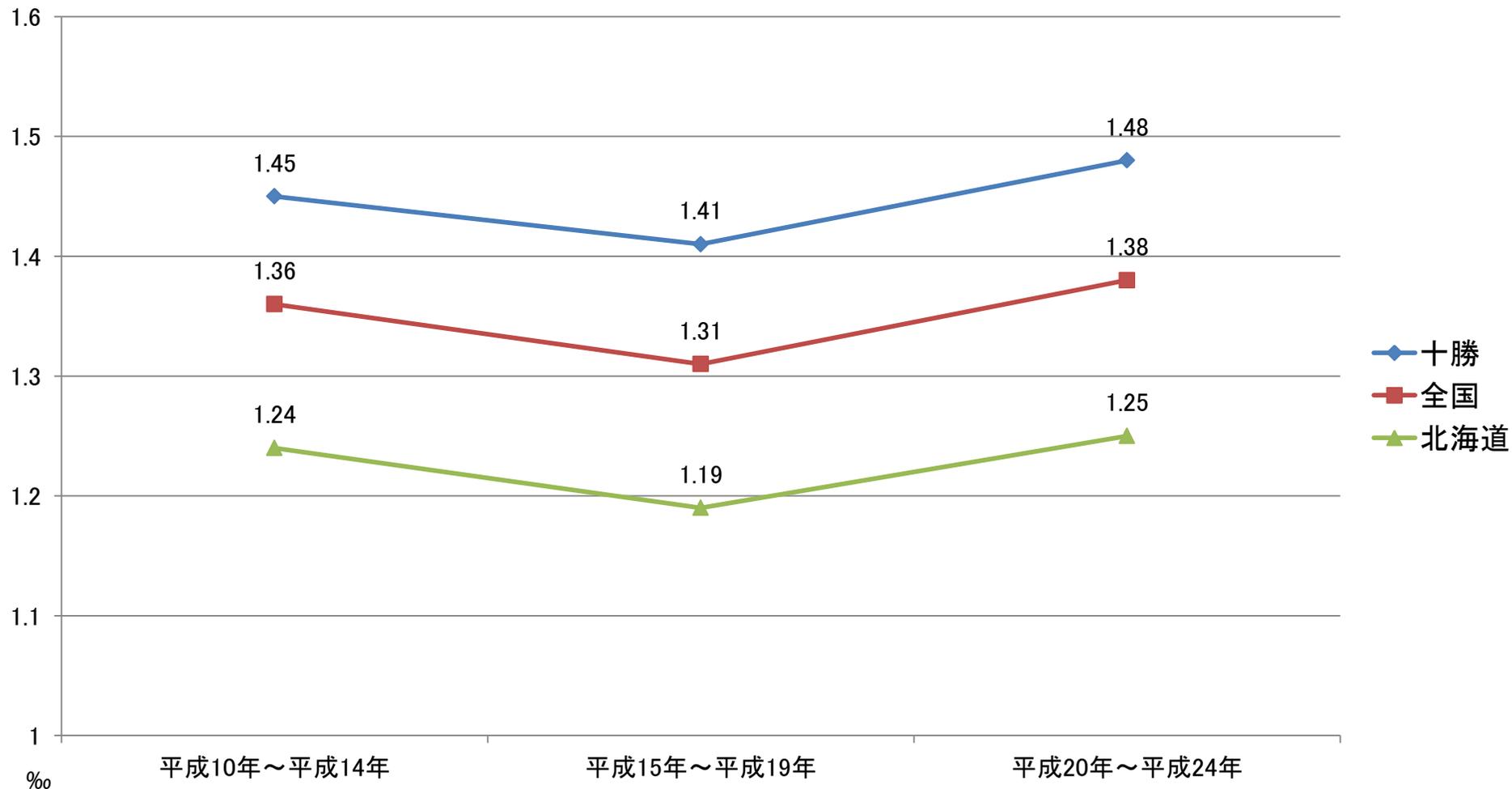
平成17年と平成22年を除き、転出者数が転入者数を上回っている。平成23年以降、転入者数は1万4千人後半、転出者数は1万5千人前半で推移しており、年平均400～700人台の転出超過となっている。



出典)住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査 北海道地域振興局市町村課

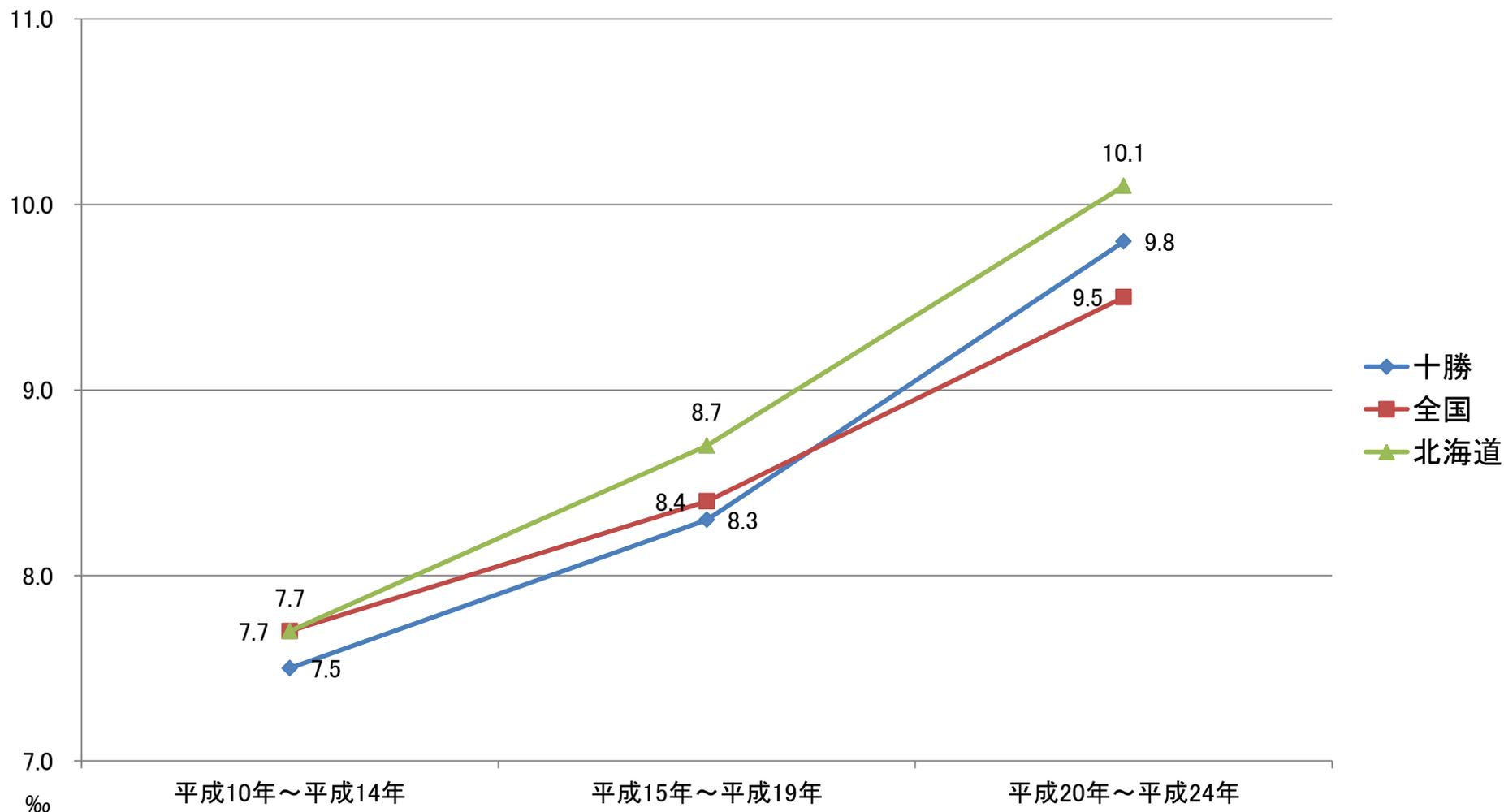
5) 管内の合計特殊出生率の推移 (H10~H24)

十勝の合計特殊出生率は、全国、北海道よりも高い。また、年による変動は同じ傾向にある。



6) 管内の死亡率（人口千対）の推移（H10～H24）

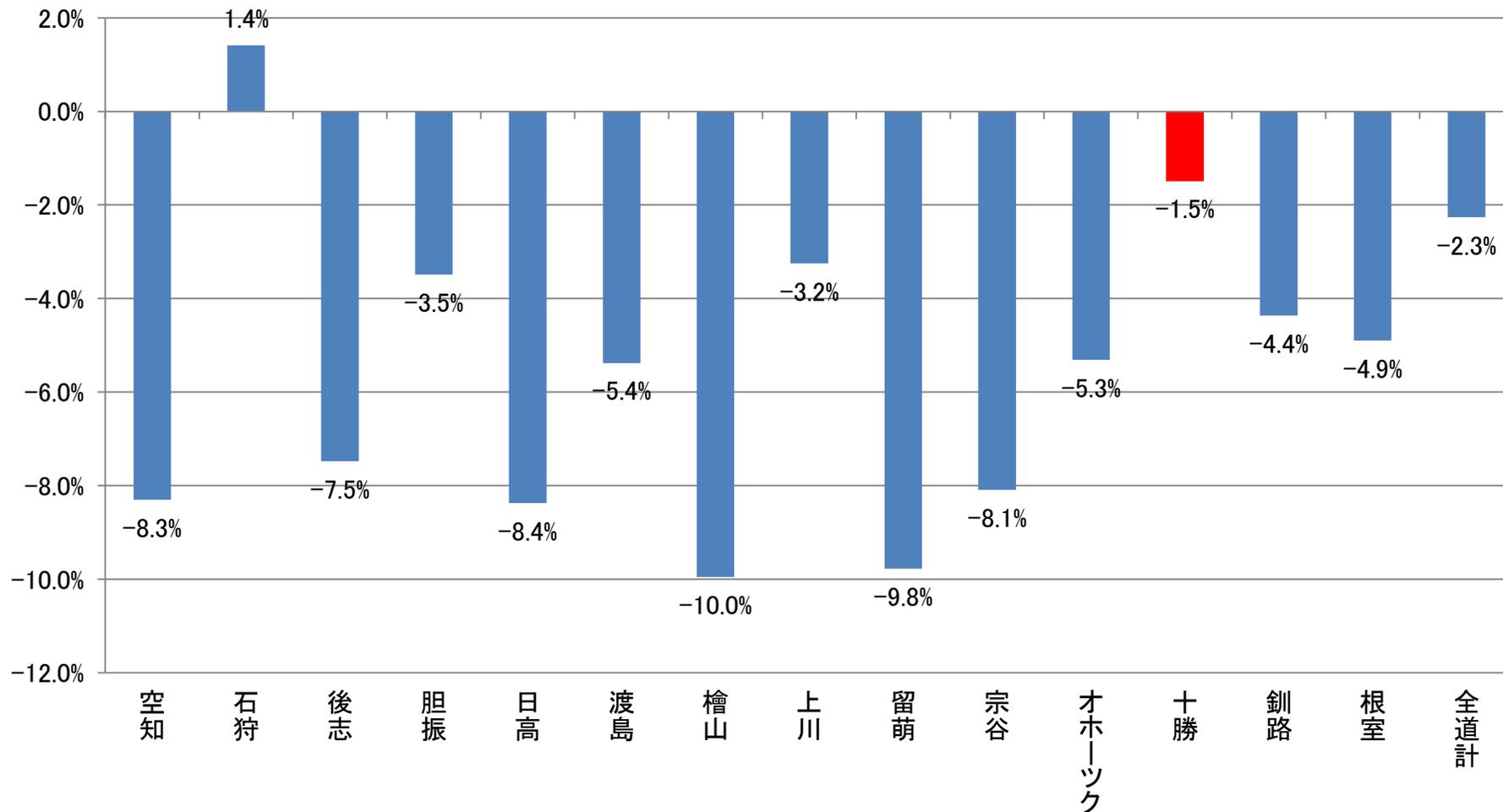
十勝の死亡率（人口千対）は、北海道に比べ低く推移している。平成20年以降、全国より高くなった。



出典)人口動態調査

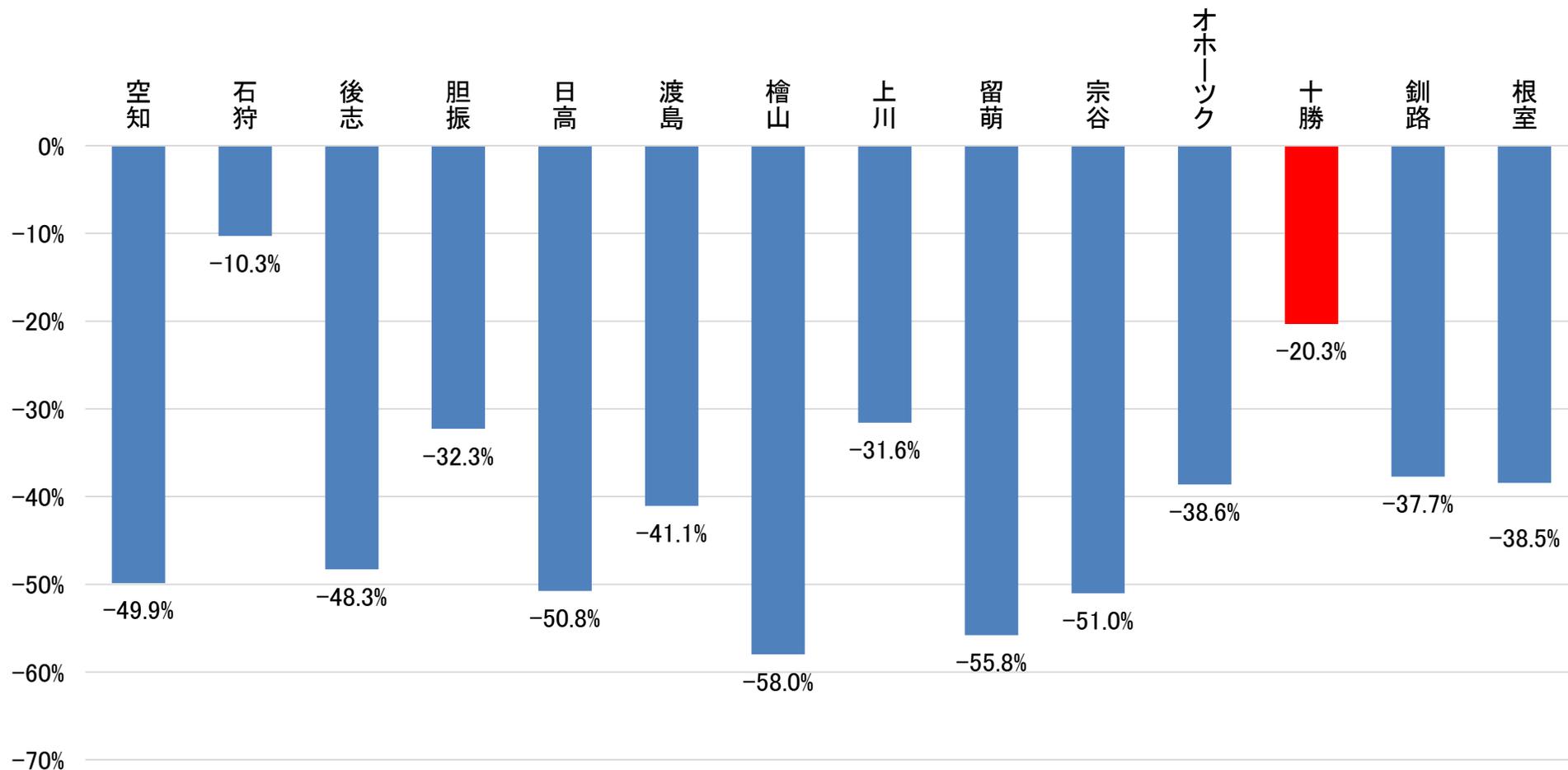
7) 人口変化率（H22→H27）の道内比較

石狩を除き、道内各地の人口が減少している中、十勝の人口減少率は最も低い。



8) 将来推計による人口減少率（2015→2045）の道内比較

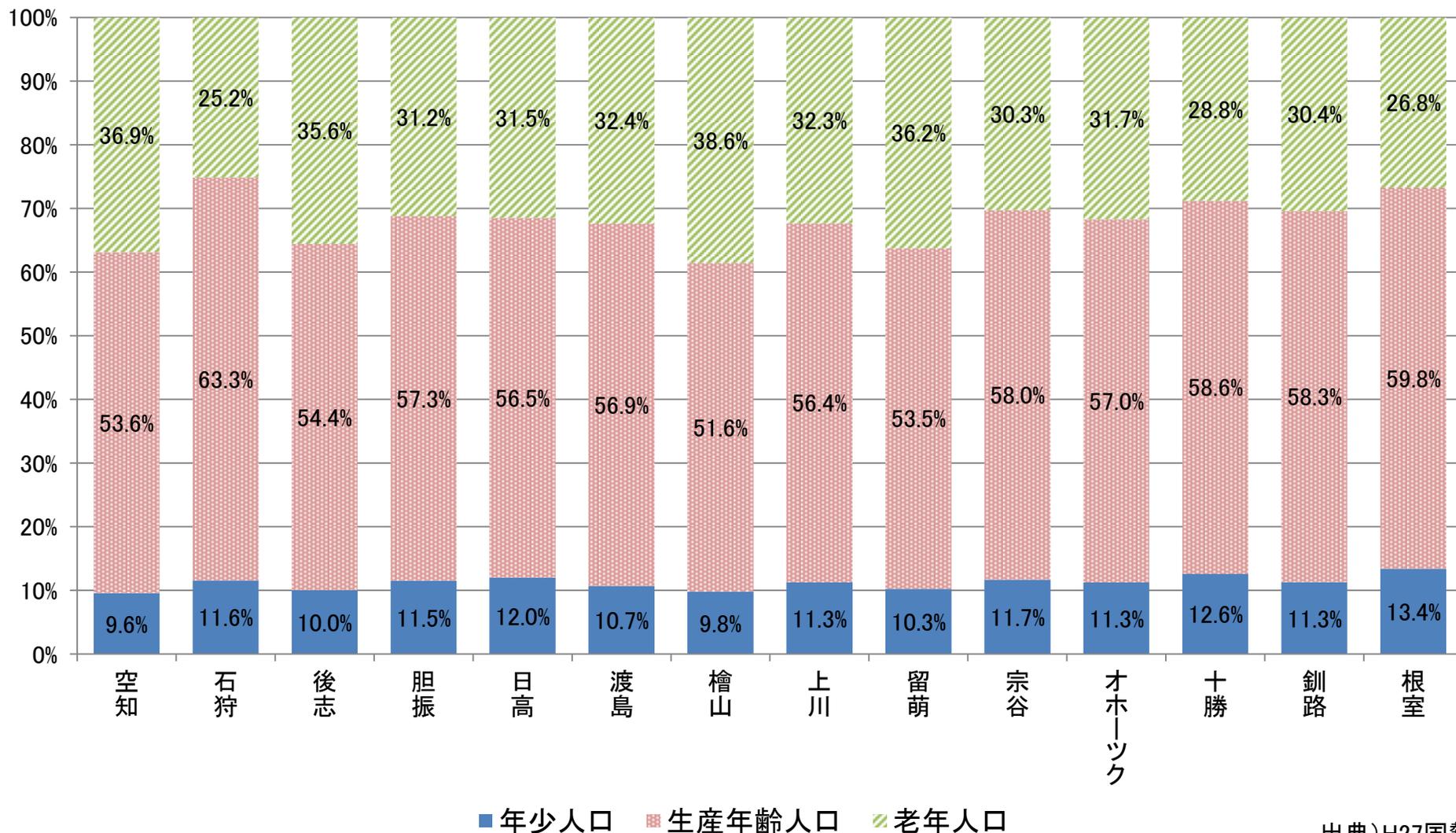
将来推計では、2045年の十勝の人口減少率は石狩の次に低い。



出典) 国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口

9) 年齢3区分別人口の道内比較

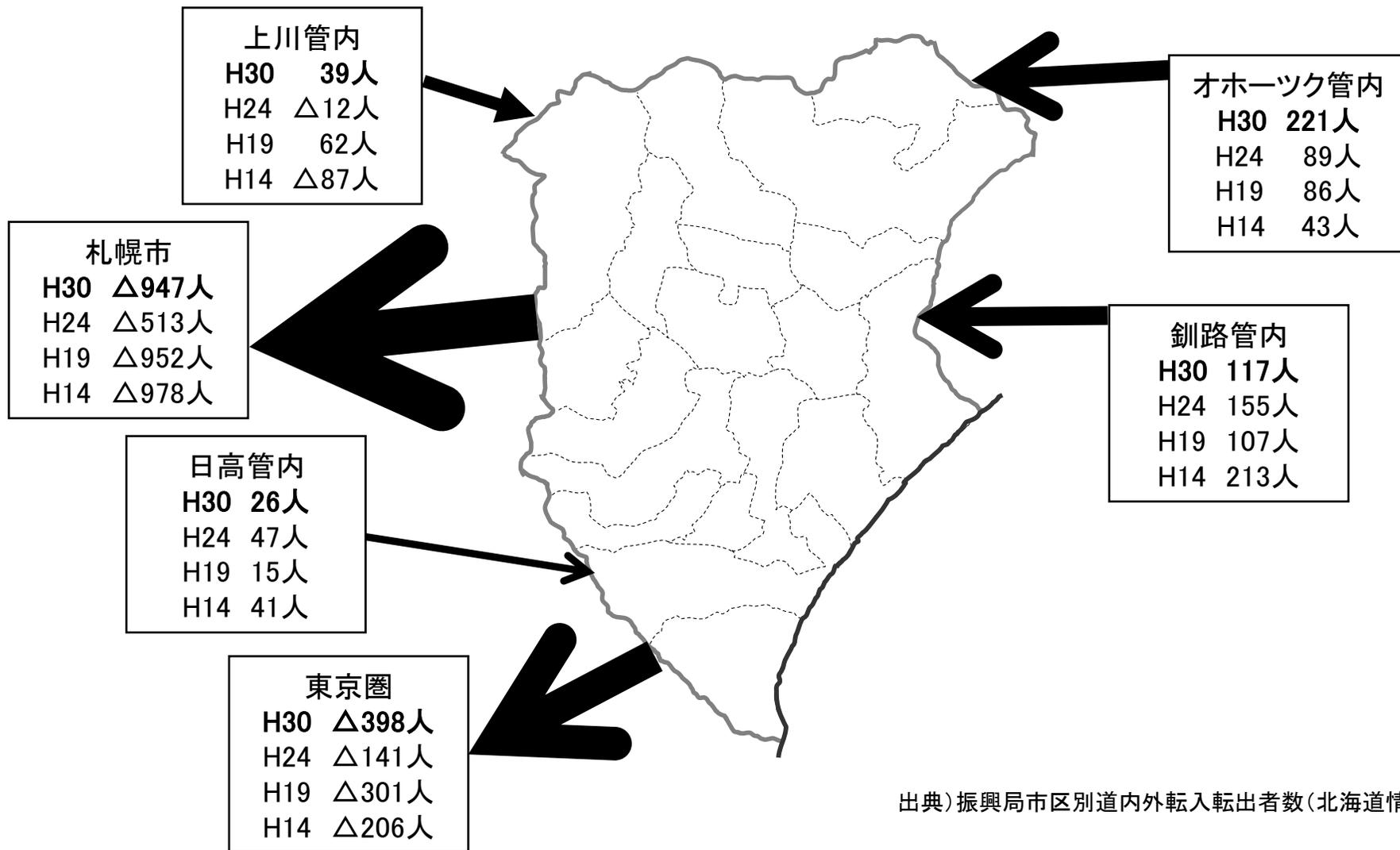
十勝の年少人口割合は道内2位、生産年齢人口は道内3位。高齢化率は道内で3番目に低い。



出典) H27国勢調査

10) 十勝圏域の人口移動状況

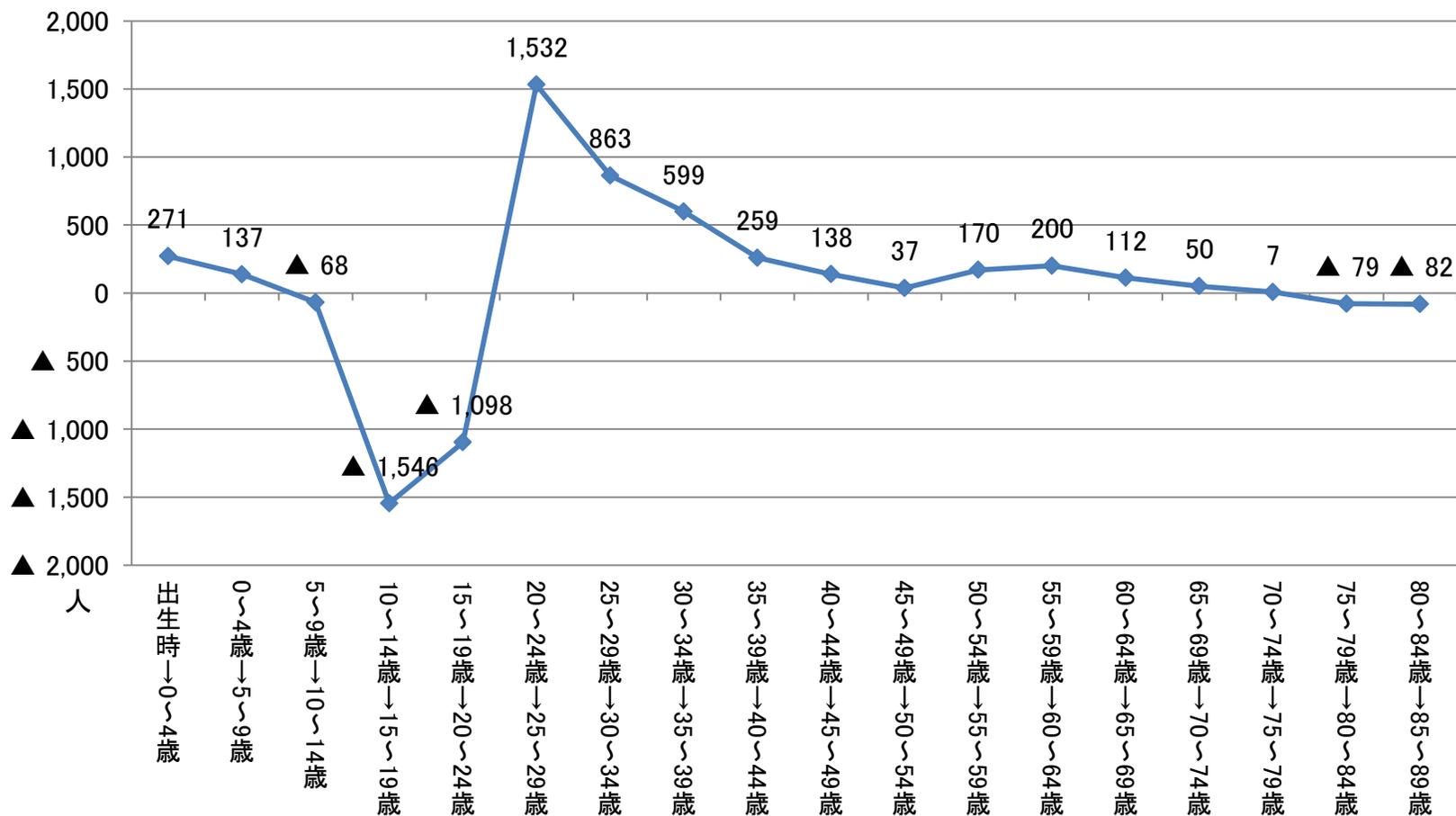
東京圏、札幌市への流出が継続している。釧路・日高管内からの流入は縮小。オホーツク管内からの流入は増加。過去、流出していた上川管内は流入に転じている。



出典) 振興局市区別道内外転入転出者数(北海道情報統計局)

11) 管内の年齢階層別の移動状況 (H22→H27)

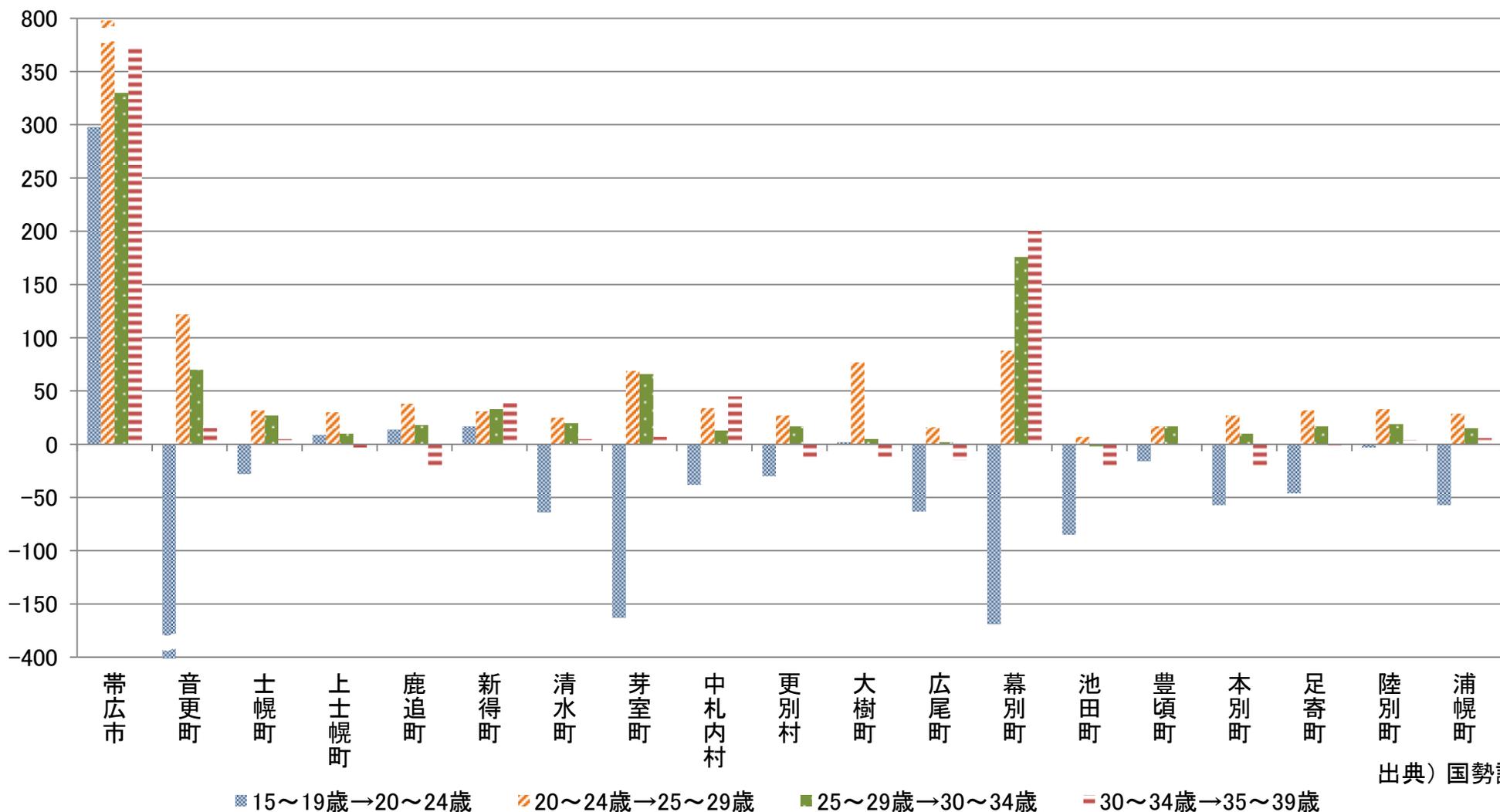
転出入の大幅な動きは10～20代で見られる。20代後半で転入超過のピークを迎え、70代後半まで続く。



注)「第4-2表 現住市区町村による5年前の常住市区町村,年齢(5歳階級),男女別人口(転入)－市区町村」に掲載された人数から、「第5-2表 5年前の常住市区町村による現住市区町村,年齢(5歳階級),男女別人口(転出)－市区町村」に掲載された人数を差し引いたもの。国外、5年前の常住市区町村「不詳」、及び移動状況「不詳」を除く

12) 移動状況の管内市町村比較 (H22→H27)

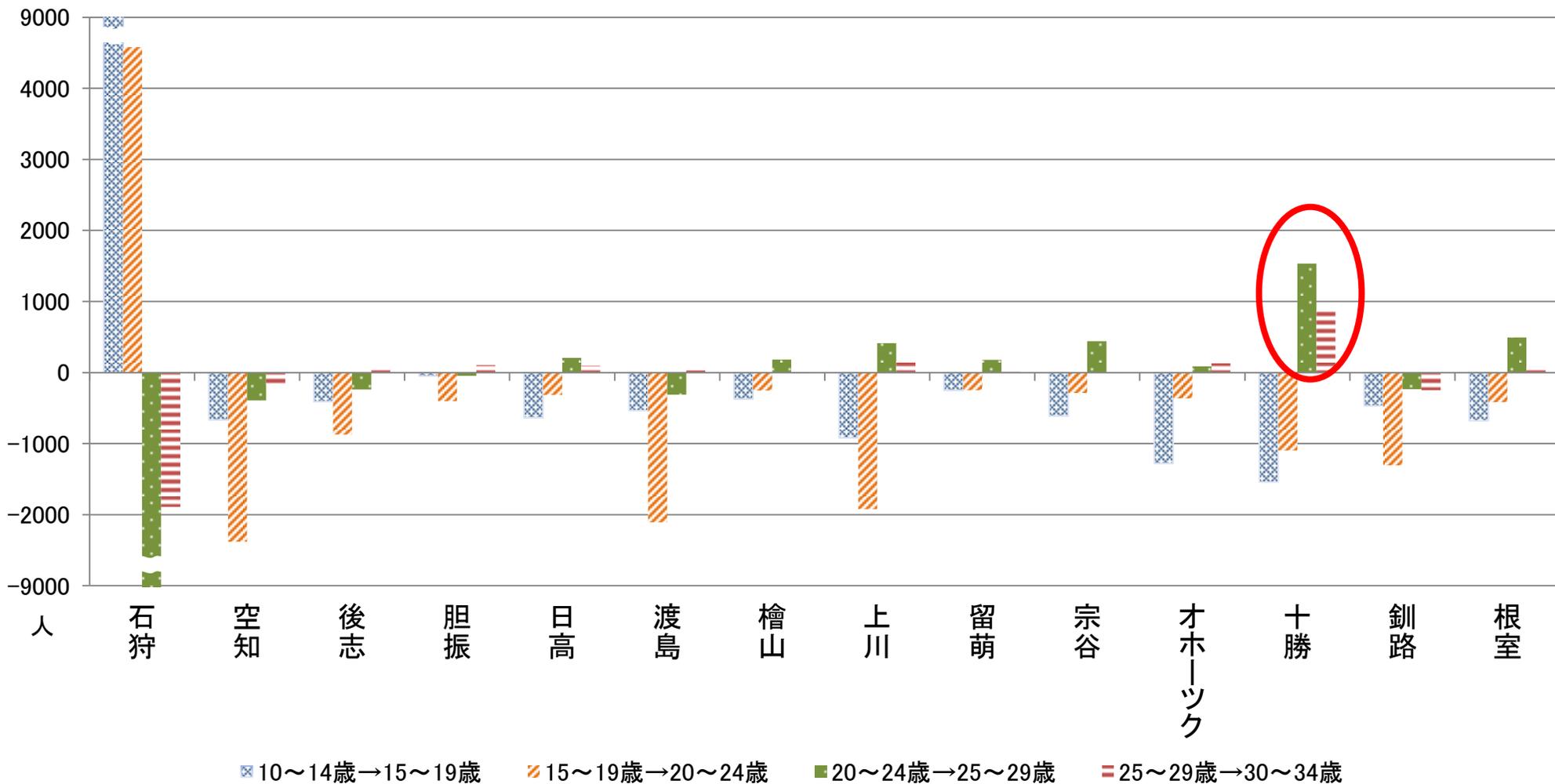
管内の多くの町村で、10代から20代前半までは転出超過、20代後半から転入超過の傾向にある。



出典) 国勢調査

13) 移動状況の道内比較 (H22→H27)

石狩以外の全ての地域は10代の転出が超過している。20代の転入は十勝が最も多い。



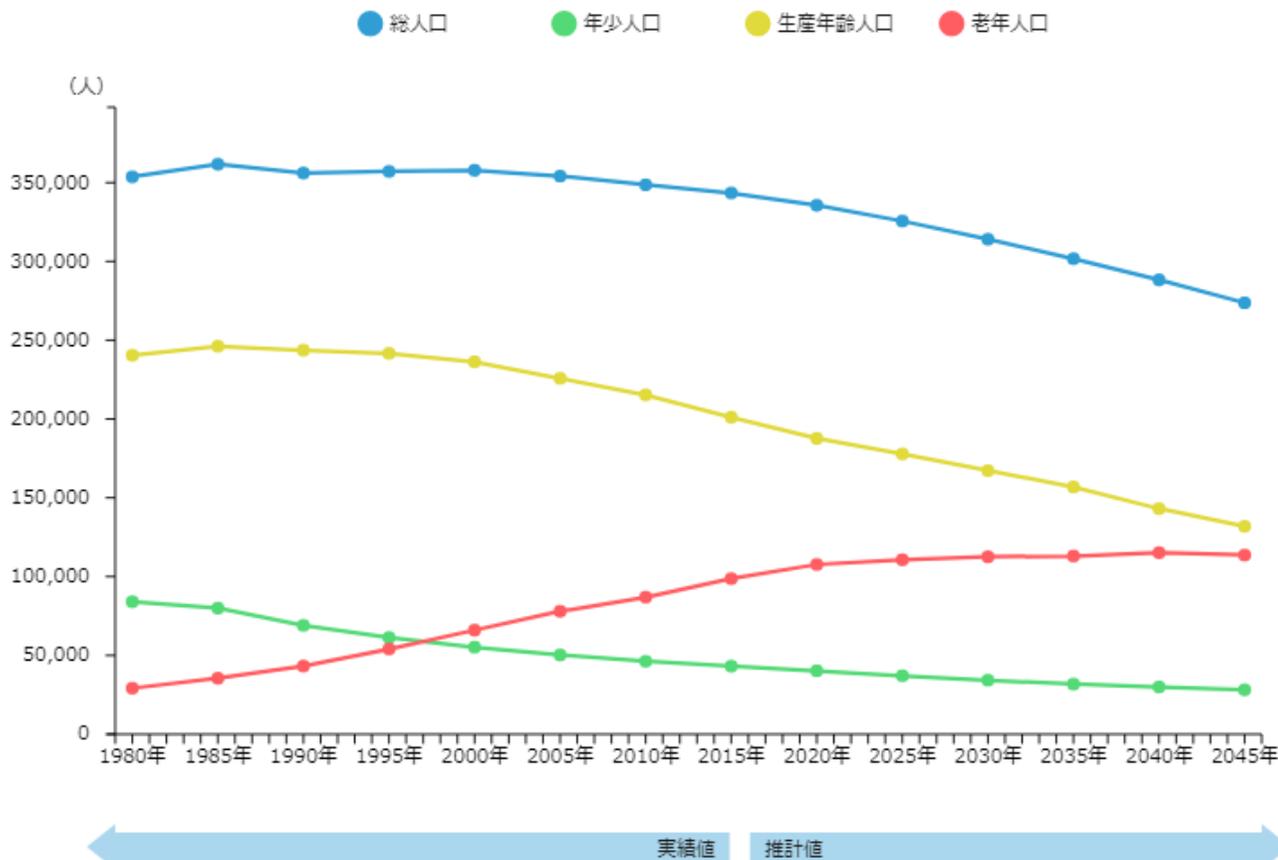
出典) 国勢調査

14) 管内の人口の将来推計

十勝の総人口は今後減少を続け、平成12年(2000年)と比較して、平成42年(2030年)には43,781人の減、平成52年(2040年)には69,560人の減と見込まれている。

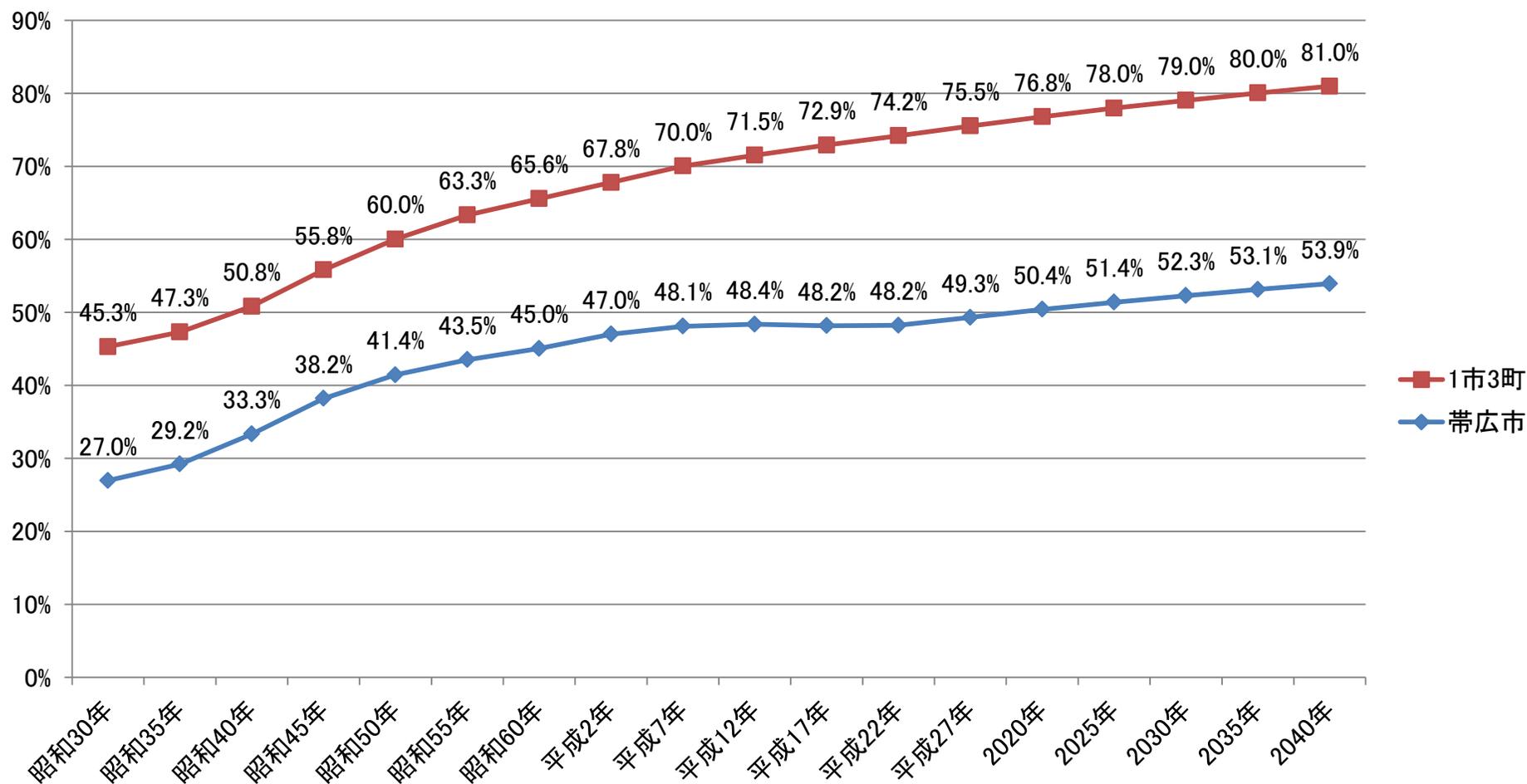
人口推移

北海道帯広市、北海道音更町、北海道士幌町、北海道上士幌町、北海道鹿追町、北海道新得町、北海道清水町、北海道芽室町、北海道中札内村、北海道更別村、北海道大樹町、北海道広尾町、北海道幕別町、北海道池田町、北海道豊頃町、北海道本別町、北海道足寄町、北海道陸別町、北海道浦幌町



15) 管内に占める帯広圏の人口割合の推移

管内人口に占める帯広圏1市3町の比率は、昭和30年の45.3%から平成27年の75.5%まで上昇。将来推計によると、2035年以降、80%以上を占めるとの予測。

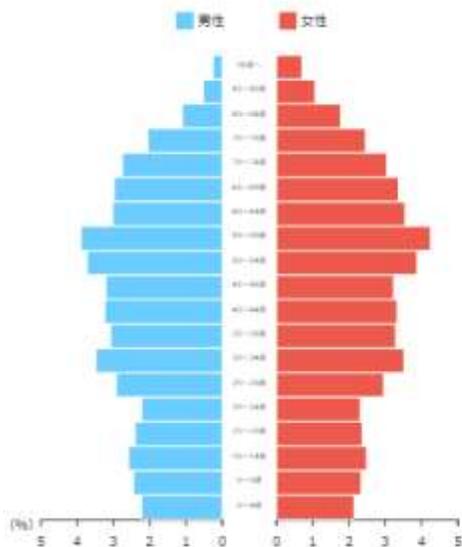


出典) 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口

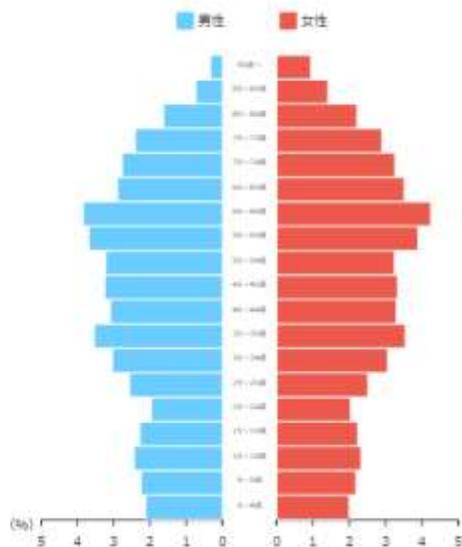
16) 管内の人口ピラミッド

管内の人口ピラミッドをみると、団塊世代と団塊ジュニア世代の数が多い。母親世代が減ることによる出生数の減少と老年人口の増加により、2045年の人口ピラミッドは壺型から花瓶型に変化している。

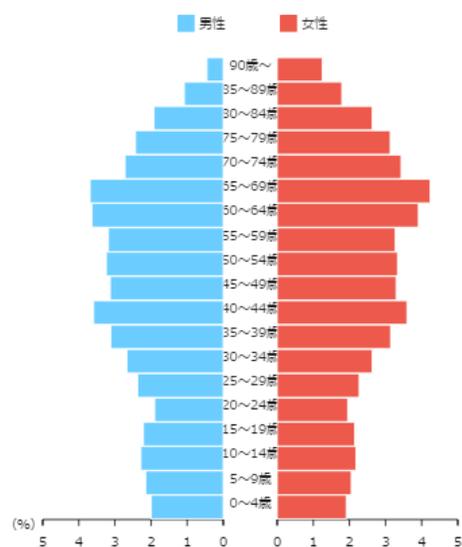
2005年



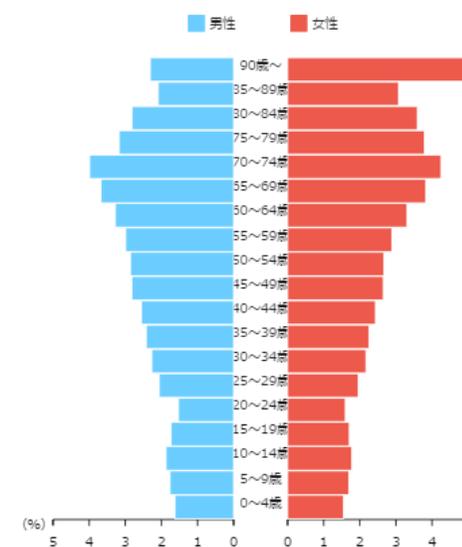
2010年



2015年



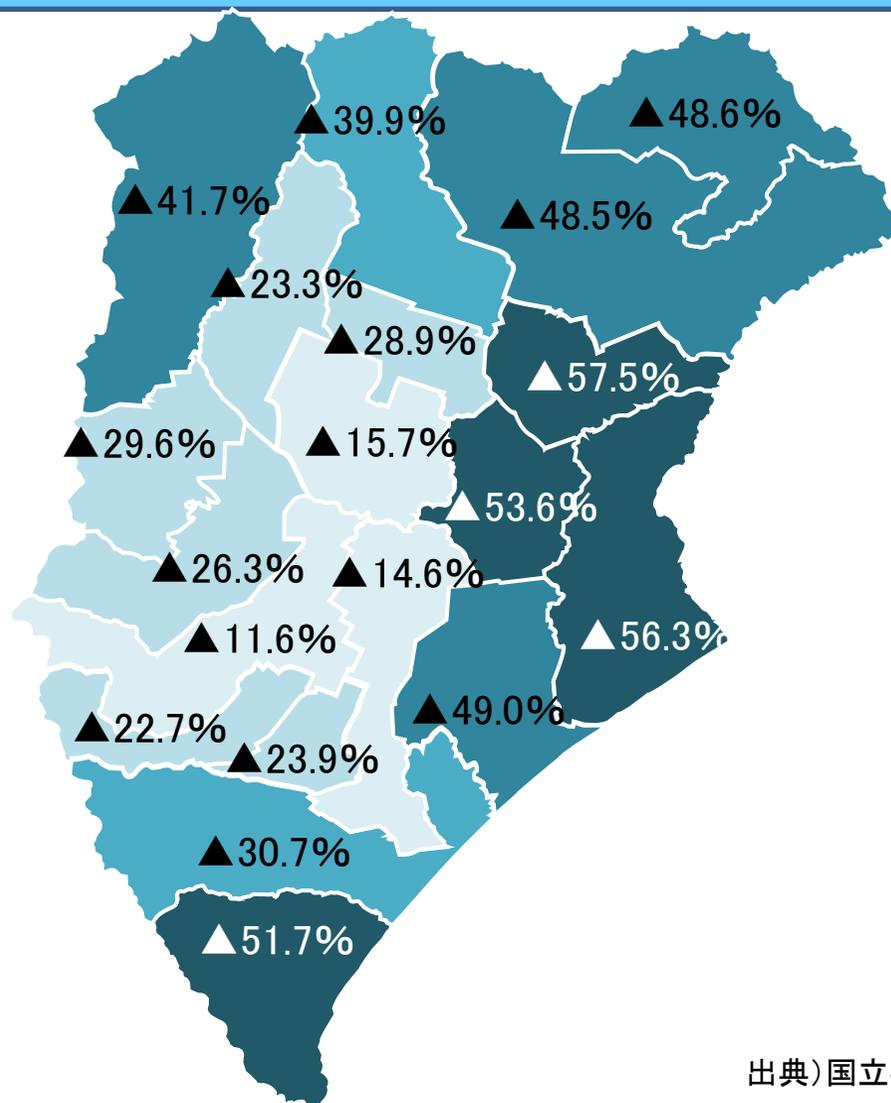
2045年



出典) 地域経済分析システム (RESAS)

17) 将来推計による管内の人口減少率（2015→2045）

2045年には、管内の半数近くの自治体が人口減少率50%前後と推計。

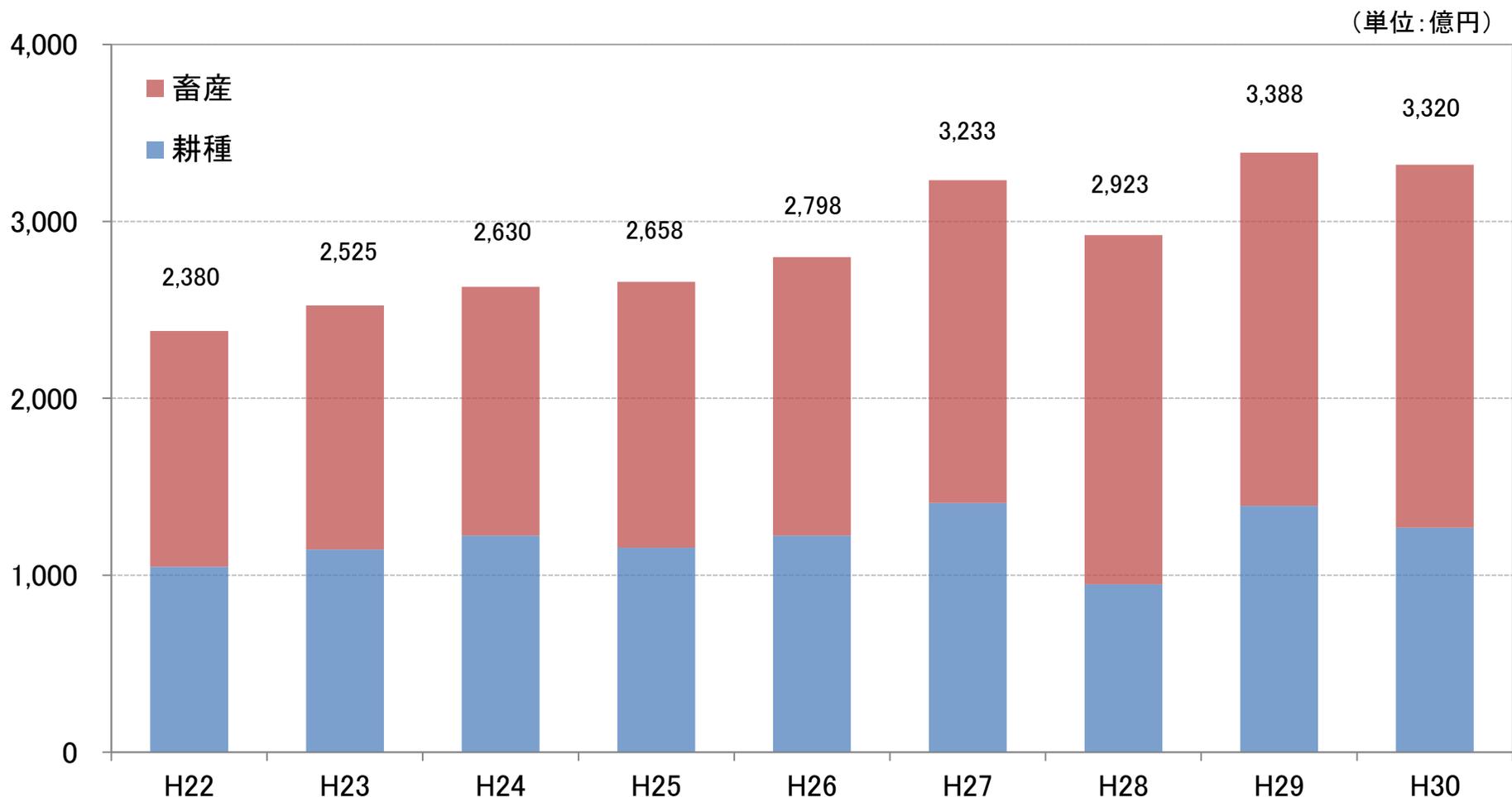


出典) 国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口

2 圏域の概況について

1) 十勝管内の農協取扱高

管内の農協取扱高は、畜産を中心に生産が拡大し、平成29年には3,388億円と過去最高を記録。平成22年と比較すると、1,000億円の増加となり、着実に上昇してきている。



出典)北海道十勝総合振興局「十勝管内農協取扱高について」(各年版)

2) 農業産出額の道内比較

十勝の農業産出額は3,152億円であり、道内の4分の1のシェアを占めている。

振興局区分	農業産出額	シェア
	(億円)	(%)
石狩	550	4.3%
渡島	378	2.9%
檜山	159	1.2%
後志	410	3.2%
空知	1,094	8.5%
上川	1,317	10.2%
留萌	184	1.4%
宗谷	463	3.6%
オホーツク	1,893	14.7%
胆振	858	6.7%
日高	450	3.5%
十勝	3,152	24.5%
釧路	831	6.5%
根室	1,139	8.8%
合計	12,878	100.0%

出典) 農林水産省「平成29年市町村別農業産出額(推計)」

3) 事業所数・従業者数の道内比較

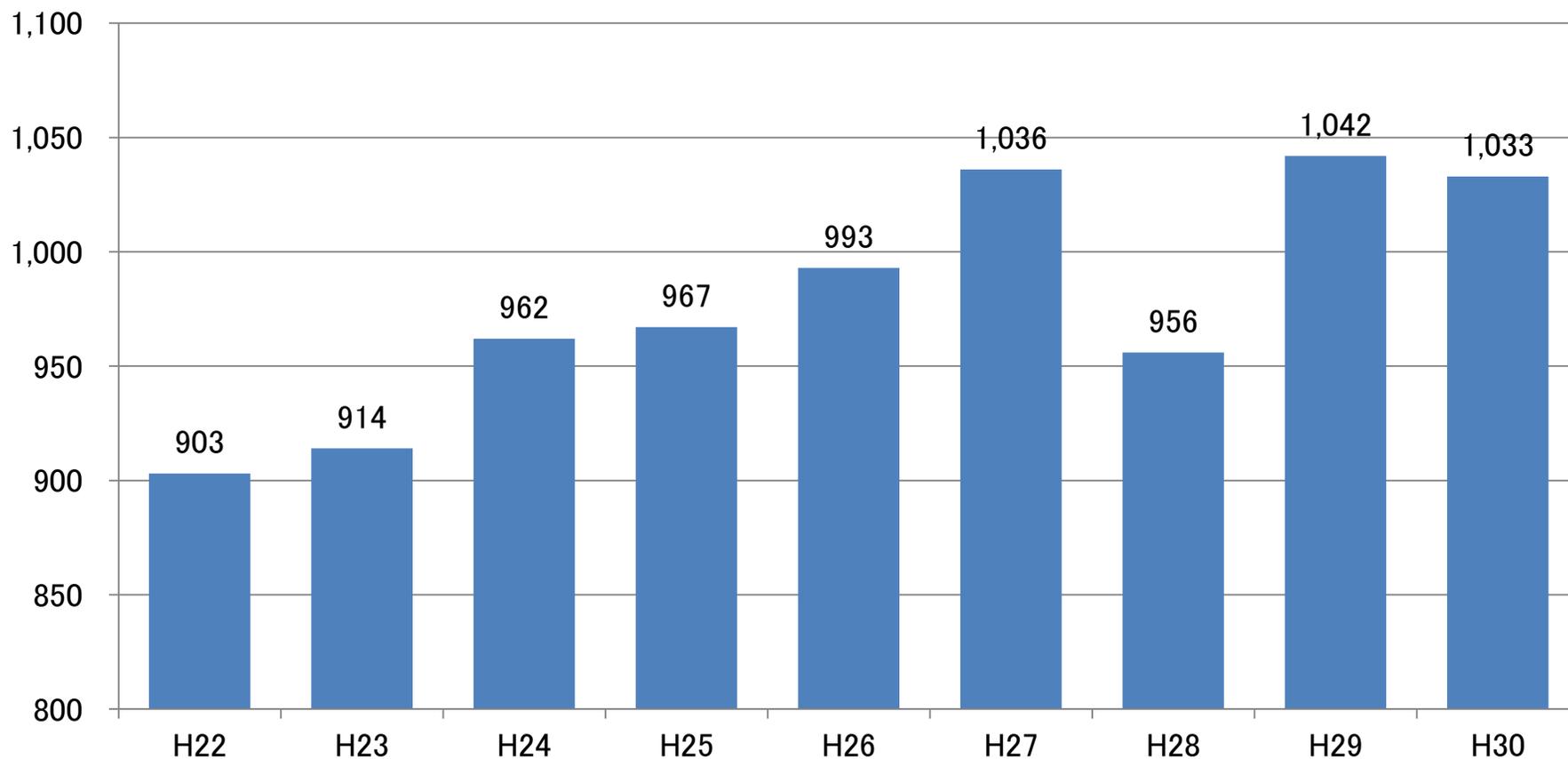
平成24年から平成28年にかけての事業所数の増加率は十勝が最も高く、従業者数の増加率も十勝が2番目。

振興局区分	事業所数				従業者数(人)			
	24年	28年	増減率 (%)	構成比 (%)	24年	28年	増減率 (%)	構成比 (%)
合 計	231,549	225,300	▲2.7	100.0	2,159,641	2,176,537	0.8	100.0
空知	13,668	13,046	▲4.6	5.8	109,760	107,050	▲2.5	4.9
石狩	87,300	85,773	▲1.7	38.1	974,281	994,731	2.1	45.7
後志	11,034	10,639	▲3.6	4.7	89,337	86,518	▲3.2	4.0
胆振	17,733	17,077	▲3.7	7.6	170,593	170,252	▲0.2	7.8
日高	3,994	3,848	▲3.7	1.7	26,592	25,224	▲5.1	1.2
渡島	19,514	18,779	▲3.8	8.3	154,828	158,911	2.6	7.3
檜山	2,081	1,964	▲5.6	0.9	12,076	11,362	▲5.9	0.5
上川	22,924	22,320	▲2.6	9.9	194,233	197,372	1.6	9.1
留萌	2,772	2,537	▲8.5	1.1	17,405	16,431	▲5.6	0.8
宗谷	3,977	3,679	▲7.5	1.6	26,948	26,872	▲0.3	1.2
オホーツク	14,428	13,880	▲3.8	6.2	118,103	115,129	▲2.5	5.3
十勝	16,038	16,153	0.7	7.2	137,632	140,973	2.4	6.5
釧路	11,754	11,462	▲2.5	5.1	96,909	95,557	▲1.4	4.4
根室	4,332	4,143	▲4.4	1.8	30,944	30,155	▲2.5	1.4

4) 十勝管内観光入込客数

管内の観光入込客数は着実に増加してきており、台風による被害を受けた平成28年に落ち込みが見られるものの、平成27年以降は1,000万人台で推移している。

(万人)



出典) 十勝総合振興局「観光入込客数調査」

5) とかち帯広空港利用者数

とかち帯広空港の利用客数は、着実に増加してきており、平成30年度には過去最高を記録している。

